愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅲ		
担当者(Instructors)	梶浦 恭子	配当年次(Dividend year)	4
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

各自の研究テーマに沿って研究を遂行する。将来、社会人としてまたは保育者として、求められる論理的な思考力、文章力、表現力を身につける。研究成果を第三者に伝えられる表記方法、プレゼンテーションの方法を学ぶ。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	授業では、おのおのの進行状況を定期的にプレゼンテーションする。個別研究日はある（原則）。が、グループワークの意見交換（ディスカッション）時間を持つことは互いの知見が広がる。そこから新たな研究の視点やヒントを得て研究の問題解決に役立てられると考えられる。刺激し合う関係性が持てるよう学生からと教員から提案し合い、進める。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション（授業説明、注意事項） 「ステップ１：テーマを決める」その１	授業の目的と概要　形式と方法 素朴な疑問こそ大切	□
第2回	「ステップ１：テーマを決める」その２ 資料を徹底して調べる　テーマ決定まで、広げたり絞り込む往復運動を繰り返す	テーマ探しに時間はかかる、よいテーマとは？ ①明確な動機②先行研究がある③問の形式で示すことができる	□
第3回	「ステップ１：テーマを決める」その３ 資料を徹底して調べる	テーマ決定まで、広げたり絞り込む往復運動を繰り返す よいテーマの作成をするための ①明確な動機②先行研究がある③問の形式表示　理解と探索（探究）へ	□
第4回	「ステップ２：調べる」体系的情報の収集　その１	１．下調べ：概略的な知識を（キーワードや用語の意味、定義調べて）得る	□
第5回	「ステップ２：調べる」体系的情報の収集　その２	２．文献検索：先行研究を検索する　テーマの絞り込み ３．文献入手：批判的に検討する文献と主張を裏付ける文献	□
第6回	「ステップ２：調べる」体系的情報の収集　その３	各自の研究テーマを基に、調べ、入手したい知識（意味、定義）のために、本を探すブラウジングや館内をウロウロして探究する	□
第7回	「ステップ２：調べる」体系的情報の収集　その４	検索データを確認し、テーマの位置づけを把握する	□
第8回	「ステップ２：調べる」体系的情報の収集　その５	各自の研究テーマを基に、調べ、入手したい知識（意味、定義）本を探す、検索データを確認し、テーマの位置づけや把握状況の交流をする	□
第9回	「ステップ２：調べる」体系的情報の収集　その６	テーマの位置づけ、把握状況の交流をする	□
第10回	作品製作と論文作成確認	各自の研究課題テーマに沿って調査、事例、作品研究を行い面談を交えながらレポートの作成や作品製作を行う	□
第11回	前期・中間発表Ⅰ	グループワークでテーマの交流、追究 各自が研究課題テーマに沿って行った調査、研究の進歩状況を発表をする	□
第12回	前期・中間発表Ⅰ	テーマの交流、追究 中間発表を終え今後の進め方確認（指導教員との交流）	□

第13回	作品製作もしくは論文の作成成果報告（各個別に行う）	各自の研究課題テーマに沿って調査、研究を行い論文作成や作品製作を行う	□
第14回	研究発表(研究成果の前期・中間発表Ⅱ)	各自の研究課題テーマに沿って調査、研究を行い論文作成や作品製作、発表の準備を行う	□
第15回	研究発表(研究成果の前期・中間発表Ⅱ)	これまでの研究の成果を論文もしくは製作作品で中間発表し質疑応答に答え、後期に向かう自己評価にする	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

テキストに添って進める。研究に必要なキーワード（3つ以上）の意味調べと先行研究論文の要約の準備（3～５の読み解き）は前期に提出する（初等組）。研究を深めるための個別の対応は繰り返し行う。前期分の計画遂行は4年生までの四分の一であり、毎時のディスカッションで得られた知見のまとめは直ぐに取りかかる（2時間）。作品であるならば、後期までの仕上げを見通し、文献検索も怠らず行うことは作品の成果が向上するために行動する。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

テーマ設定が一番の課題である。できるまで随時面談する。キーワード、論文検索を行うことで、研究論文や文献を読み解く課題の確認を授業で行う。提出要約の概要と気づき・感想の添削をすることを繰り返し、フィードバックする。なお、保育・教育教材のための作品の場合においても同様であるため、スケジュールの計画案を提示し自己テーマ課題のフィードバックを定期的にする。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
	◇ 2018子ども発達DP1	幼稚園教育要領、教育基本法等に示された教育の目的や基本の内容を理解する・体得する基礎的な資源能力を身に着けるために、自己課題を持ち探究心を持ち続け、知識力を身につけ、論文記述に向かうことができる
	◇ 2018子ども発達DP2	追究した研究記述の提示とその説明等のゼミ場面、相手を思いやり尊重できる等という人間力（自らを高め他者を受容する感覚）を生活態度で表し体得している
	◆ 2018子ども発達DP3	保育現場で直面する幼児の発達や関係性における多様な問題・課題に幼児理解上に立った実践報告ができる力を習得できている

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			15%	85%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

レポート課題　「自分にとってのテーマは何か（20）」「①明確な動機はどこにあったか（10）、②先行研究がいくつあるか（30）、③問の形式で示すことができているか（10）」「調査していること、事例について、作品について（15）」リモート授業参加（15）

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	思考を鍛えるレポート論文作成法　［第３版］	978-4766425772
2	最新版　大学生のためのレポート・論文術	978-4816350573
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	野外教育における安全管理と安全学習―つくる安全,まなぶ安全(野外教育入門シリーズ)	978-4764415829
2	とぎすまそう！安全への感覚～里山活動でのリスク管理～（自然体験教育ブックレット3)	978-4990594367
3	学校教育を活かす自然体験教育（自然体験教育ブックレット 1)	978-4990594336

4	あなたにもできる！環境教育・ESD（自然体験教育ブックレット2）	978-4990594350
5		